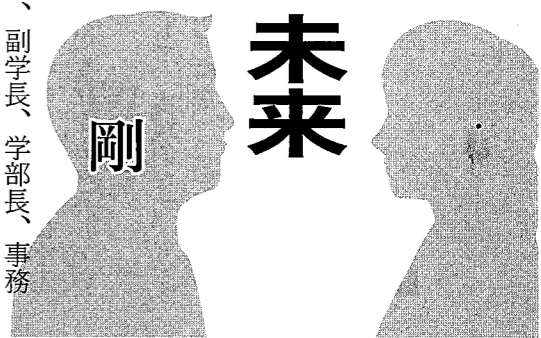


対話を通じた教育改革・改善への取り組み——未来

京都産業大学 学長室

課長 物部 剛



前回まで六回にわたり「対話」を通じた教育支援及び教育改善活動における本学の取り組みを紹介してきた。それぞれのレベルにおいて、学生―事務職員、学生―学生、学生―教員、教員―事務職員間での様々な対話により、それぞれの立場の理解を促進し、より実効性の高い取り組みを目指した活動を進めてきていることは、前回掲載した本学のFD活動におけるPDCAサイクルの紹介においても述べている。今回は、この「対話」の理念を、本学の新たなグランドデザイン「神STYLE2030」の検討においても導入し、より多くの教職員のアイデアを集めるだけでなく、大学執行部の考えと現場の教職員の考えの温度差を解消し、企画実行性を高めるための取り組みを紹介する。

創立五十周年を迎えた本学は、去る十一月二十七日に、記念式典を挙行し、本学の新たなスタートの指針を明確にするためにグランドデザイン（中長期計画）を発表した。本グランドデザインは、「教育・学生支援」「研究

グランドデザイン「神STYLE2030」の検討スキーム

それぞれの作業部会は、週に一回、一時間三十分から二時間程度の会議を定期開催し、答申作成までにおよそ十六回開催されている。当然ながら、会議を開催する間にも、作業部会への提案書の作成や、大学を取り巻く環境のリサーチ活動などを行い、会議に臨むだけでも相当の時間を費やすこととなったが、作業部会の構成員が、それぞれの立場を超えて対話を行うことで、それぞれのレベルにおける問題点や課題が浮き彫りとなり、より効果的かつ実行性の高い答申案を作成することが可能となった。

この作業部会において、意味ある議論が保持できた大きな理由は、座長と副座長を中心として、作業部会構成員内及び作業部会と検討委員会での「対話」が成立したことである（図1）。作業部会では、既に述べたように構

成員間の意見交換などの対話が見られたが、検討委員会と作業部会構成員との直接的な意見交換は無く、座長と副座長が定期的に検討委員会に作業部会の進捗状況を報告、調整を行い、その結果をもとに作業部会にフィードバックすることで、検討委員会と作業部会の間で間接的に「対話」の機能が働いたと思われる。このことは、本学が目指す対話によるFD活動における質向上スパイラルと同様の効果を発揮し、直接的ではなくとも、異なるレベルの組織間での「対話」を実現することが可能となった。

このような経緯を経て完成した答申案は、検討委員会及び部局長会での修正を受ける一方で、この三つの領域を具現化するための四つの戦略を合わせることで、神STYLE2030は完成を迎えた。ただし、このプランは、五年を一期とし、三期をもって実施することとなるため、今後も常に実施案の計画と見直し

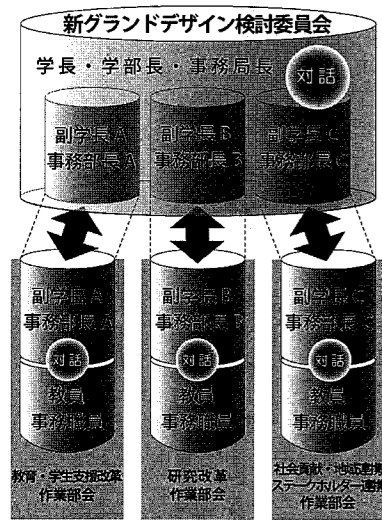


図1 副学長、事務部長が2つの会の対話の機能を果たす

改革」「社会貢献・地域連携・ステークホルダー連携」の三つの領域を中心とし、この三領域を包括的にカバーする「組織・人事戦略」「財務戦略」「広報戦略」「キャンパス計画」により構成されている。今回策定されたグランドデザインは、次の五つのプロセスを経て立案されている。

- 第一段階：新グランドデザイン検討委員会（学長・副学長・部局長等）による、理念と検討事項等の整理の実施（三領域を確定）
 - 第二段階：副学長・事務部長をトップとした作業部会を設置し、具体的プランの検討
 - 第三段階：作業部会の答申案をベースとしたグランドデザイン検討委員会による精査
 - 第四段階：三領域の答申の実施に向けた四つの戦略の検討（法人部門を中心とする検討）
 - 第五段階：最終案における理事会での検討
- これらの活動において、特に、新グランドデザイン検討委員会と作業部会においては、その両方のメンバーである副学長と事務部長が中心となり、二つの組織がそれぞれ「対話」する構図を取り得たことから、作業部会における答申案と検討委員会における答申案の差異を、最小限に留めることが可能となった。

最後に、誌面の関係上、一部となるが、上記対話により作成された神STYLE2030の三領域のVisionを紹介させていただきます。「むすび」とさせていたただきたい。

「神STYLE」三領域の基本Vision

- ◎世界的評価を受ける研究成果を、「より良い教育」につなげます。
- ◎新たな学部を設置・再編し、新たな社会ニーズに応えます。
- ◎実践力や応用力養成を重視し、「知識活用型」教育にシフトします。
- ◎課題解決能力が身につく演習など、参加型授業の充実を図ります。
- ◎言語能力を徹底的に鍛え、世界に通用する人材を育成します。
- ◎ICTをフル活用した先進的な教育プラットフォームを拡充します。
- ◎四学期制を導入し、多様な学び方を可能にします。
- ◎資格取得や起業支援など、正課外での成長機会を充実します。

- ◎研究者・教員の質を向上し、質の高い研究成果を累積します。
- ◎年齢・性別・国籍・キャリアなど多様な研究者を確保・育成します。
- ◎質の高い研究成果にもとづき、教育の専門性を一層高めます。
- ◎研究者・教員が成果を発揮しやすい環境を整備します。
- ◎世界規模の大学ブランディングに資する研究に傾注します。
- ◎将来的社会ニーズを先取りした戦略的研究領域を定め、研究を支援します。
- ◎本学研究者と国内外の研究者との共同研究を推進します。
- ◎研究成果を一元的に把握する仕組みを構築し、効果的な活用を図ります。

- ◎地域への教育・文化・スポーツ振興に貢献します。
- ◎地域への学内施設の開放や、教職員の知的・人的貢献を活発化します。
- ◎知の創造や人材育成を担う共生拠点機能として地域活力向上を一層推進します。
- ◎地域との共同活動を積極化する「むすびわざ連携センター（仮称）」を新設します。